

初心者
向け

RPA のことがゼロからわかる！

RPA 入門ガイド

RPAとはの基礎知識からメリット、RPAの種類、ツールの選び方から導入のステップ、活用事例まで。



はじめに

DX（デジタルトランスフォーメーション）や働き方改革、生産性向上を巡る議論が活発化する中、近年「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）」が注目を浴びています。

しかし、RPAという言葉聞いたことはあるものの、具体的に何ができるのか理解できていないと感じている方も多いことでしょう。

このガイドブックは、RPAに興味を持っている方々、特に初心者の皆様を対象にしています。RPAの基礎知識からスタートし、実際の活用事例や導入手順まで、わかりやすくステップバイステップでご案内いたします。

RPAがビジネスや働き方にどのように変革をもたらすのか、本ガイドブックが課題解決の一助となれば幸いです。



- 01** RPAとは
- 02** RPAが注目される理由・市場
- 03** RPAの基礎知識
- 04** RPAの種類
- 05** RPA導入のステップ
- 06** 導入事例
- 07** よくある質問・AIやiPaaSとの違い
- 08** RoboTANGOについて

RPA=ロボットによる業務プロセスの自動化

RPA（アールピーイー）とは、Robotic Process Automation（ロボティック・プロセス・オートメーション）の略で、「ロボットによる業務プロセスの自動化」を意味します。

RPAは、「ルーティンで繰り返し行うパソコン業務を自動化する技術・ソフトウェア」で、予め決められた手順・ルールに従って自動で処理を行います。人間がおこなっている作業をRPAロボットに記録させることで、人が操作するのと同じ様に自動で実行してくれます。

RPAロボットが人の代わりに作業を行うことで、業務の自動化を実現し、今まで人手をかけて作業していた時間や人的ミスを大幅に削減することができます。それにより人間は創出できた時間を活用し人間にしかできない企画や開発、クリエイティブな業務に取り組むことが可能になります。



RPAは、人のパソコン操作を記録し、そのまま再現して自動化する仕組みです。
自動化したい作業の手順をRPAロボットに登録すれば、人が操作するのと同じように正確に実行してくれます。

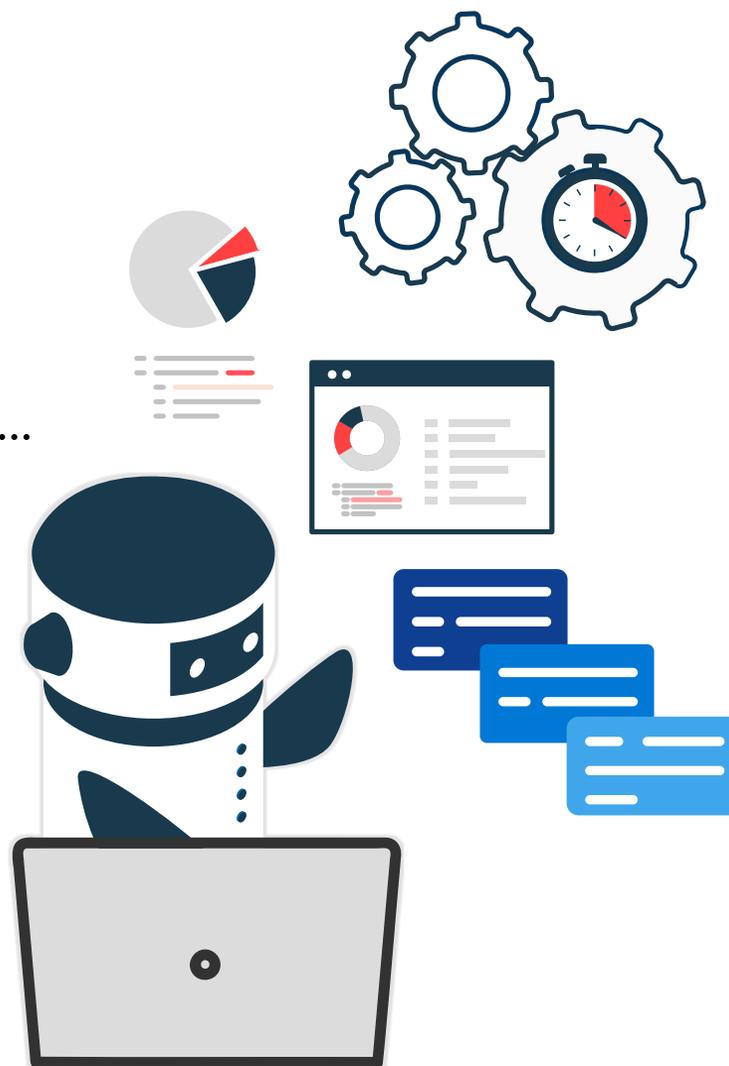


定型業務や 繰り返し作業に特化

RPAは予め設定された手順やルールに沿った作業を自動化するシステムのため、ルーティン業務や繰り返しのタスクを大量に処理することに長けています。

アプリケーションやシステム との互換性が高い

RPAは、スクラッチシステムをはじめ、ERPシステム、Excelなどのローカルアプリケーション、データベース管理システムなど、既存のビジネスアプリケーションとシームレスに連携できます。さまざまなアプリケーションやシステムと互換性があり、幅広い業務プロセスに適用可能です。



24時間365日稼働

RPAはソフトウェアのため24時間365日稼働が可能です。人と違い作業スピードが低下することなく処理できます。日中では難しい作業も夜間や休日に処理させることが可能です。

AI-OCRとの相性が良い

RPAはAI-OCR（画像や紙媒体をテキストデータ化するシステム）との相性が良く、紙媒体で帳票を扱う企業では文字の読み取りからシステムへの入力までの一連のプロセスを自動化する企業も多く見られます。

RPAを活用することで企業や従業員が得られるメリット・ベネフィットは多岐に渡ります。

例えば業務効率化や生産性向上、人的ミスやコストの削減、コアな業務へのリソース配分、人手不足解消などが挙げられます。



業務効率化による生産性向上

日次・週次・月次に発生する単純作業や定型業務を自動化することで業務効率化を実現できます。人間よりも高速なスピードで作業を代行するため、業務の作業工数を大幅に削減し、業務効率を上げることができます。

また、RPAは24時間365日の稼働が可能のため、従業員がいない時間でも作業を行うことができ、生産性を向上させることができます。



人的ミス削減による精度向上

単純作業を長時間繰り返し行くと、集中力が途切れ、どれだけ慎重に行っても、ミスが発生しやすくなります。

RPAなら正確に作業を実行することができるため、入力ミスや漏れ、送信ミスなどの人的ミスを削減し、品質向上を実現します。また、それに伴うWチェックや修正作業の時間も減らすことが可能です。

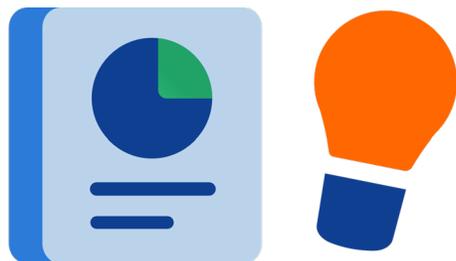


人的リソース・コスト削減

RPAなら定型業務を高速且つ効率的に処理することが可能です。従業員が手作業で行う場合に比べて、RPAによる処理で作業時間を短縮できます。これにより、従業員の人的リソースやコストが大幅に削減されます。繁忙期の残業時間の削減にも貢献。また、作業が増えることで発生する人員の採用コストや教育コストも削減することができます。

RPAを活用することで企業や従業員が得られるメリット・ベネフィットは多岐に渡ります。

例えば業務効率化や生産性向上、人的ミスやコストの削減、コアな業務へのリソース配分、人手不足解消などが挙げられます。



人がやるべき作業に集中できる

単純作業・ルーティンワークから従業員を解放することで新たな時間が創出され、より人間の能力が必要な商品企画・開発や市場調査、分析業務、顧客対応など、本来注力してやるべき業務に時間を充てるのが可能になります。本来はやったほうがいいけれど工数がかかることを理由にできていない作業もRPAなら飽きずに作業します。



人手不足と属人化解消

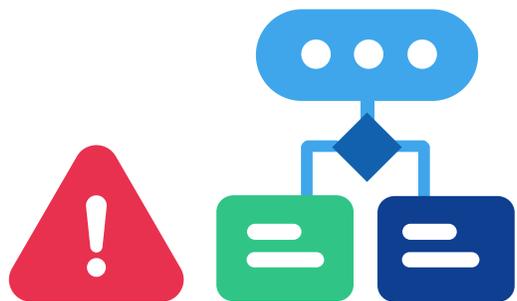
今まで人が行ってきたルーティン業務を自動化することで属人化を防ぎ、業務の標準化を促進します。また、RPAなら繰り返し作業に割く時間をおさえられるため作業ボリュームが増えても、今と同じ人員数で業務が運用できるため人手不足解消にもつながります。



従業員の精神的負担を軽減

重要だけど自分でなくても良いような同じ作業の繰り返しや、期日がある業務をミスがないよう処理する業務は従業員の大きな精神的負担に。RPAがその業務を自動化することで従業員の精神的負担やストレスを軽減します。

RPAは、企業にとって多くのメリットを提供しますが、導入や運用において考慮すべきデメリットも存在します。主なデメリットを3つ挙げますと以下の通りです。



業務が止まる恐れ

RPAによる作業の自動化中に、予期せぬ何らかの要因でエラーが発生し、中断されることで業務が停止するリスクが存在します。このような事態を避けるために、エラー発生時の通知の設定や、エラー対応策を事前に準備しておくことが重要です。



柔軟性の欠如

RPAは、規則性のある定型的な業務を自動化するのに適しているため、柔軟な対応が求められるものに向いていません。例えば自動化したい業務プロセスが複雑であったり、業務フローに頻繁な変更が生じる場合、運用に必要なリソースが増加し、その結果として費用対効果が低下するリスクがあります。



属人化のリスク

RPAに関する知識が限られた人材に集中してしまうと、その人材が休職・退職してしまった場合、自動化のプロセスやRPAロボットの更新が困難になってしまいます。属人化を防ぐため、RPAに関する知識やスキルの共有、ドキュメントの作成などが重要です。



- 01 RPAとは
- 02 RPAが注目される理由・市場
- 03 RPAの基礎知識
- 04 RPAの種類
- 05 RPA導入のステップ
- 06 導入事例
- 07 よくある質問・AIやiPaaSとの違い
- 08 RoboTANGOについて

生産年齢人口の減少と 働き手不足



生産年齢人口の減少が進む中、労働力不足への対応としてRPAが注目を浴びています。

日本では今後ますます少子高齢化が進む見込みで、企業は労働力不足に悩む中、限られた人的リソースを効率的に活用せざるを得ません。有限な人材を最大限に活かすため、現在RPAの導入が進んでいます。

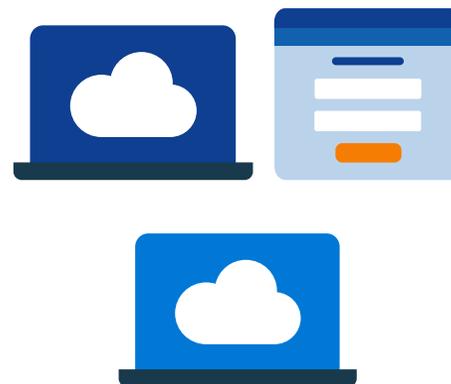
(出典) 内閣府(2022)「令和4年版高齢社会白書」

DXの推進・需要



近年、急速なデジタル化や、2025年の壁問題、新しい働き方への対応において、DXが注目を浴びており、多くの企業が推進しています。特に、DXの目的である「業務の効率化・生産性の向上」は大きな焦点となっており、その中でもRPAが注目を浴びています。RPAは業務プロセスを自動化し、最適化することで、生産性向上やコスト削減といった目標に寄与することが可能です。

SaaS/ERPの普及



SaaS/ERPの普及によりバックオフィス部門の業務プロセスをシステム化することができるようになった反面、業務ごとに異なるシステムが乱立。結果、手作業でERPやSaaS間のデータ連携を行わなければならない生産性が低いことが課題でした。そのシステム間の連携を効率的に実行するために近年RPAのニーズ・需要が増加しています。

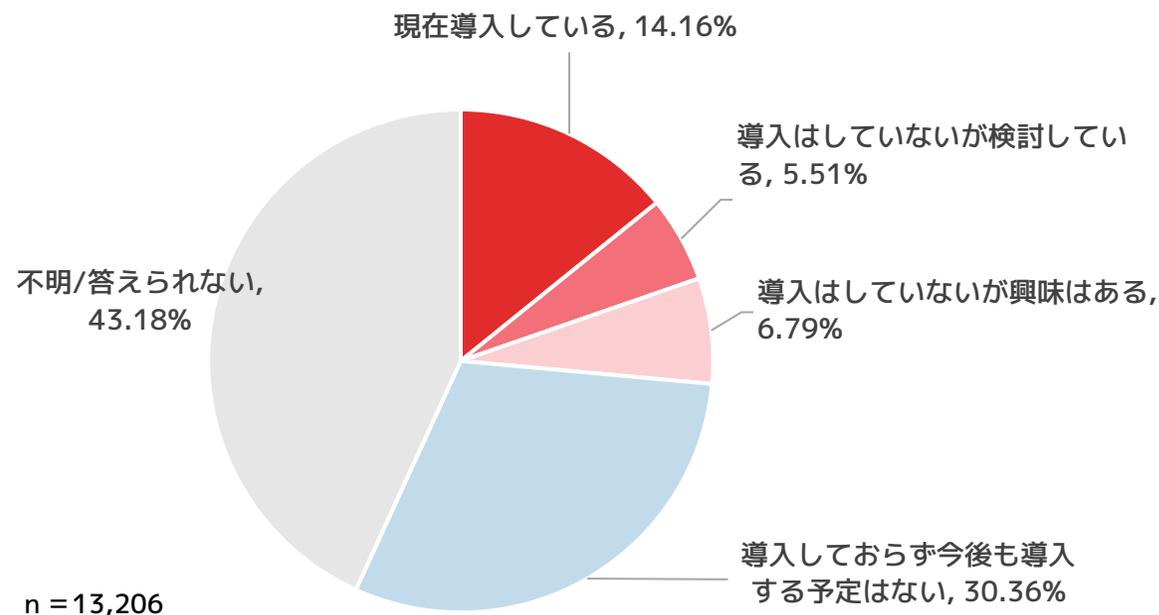
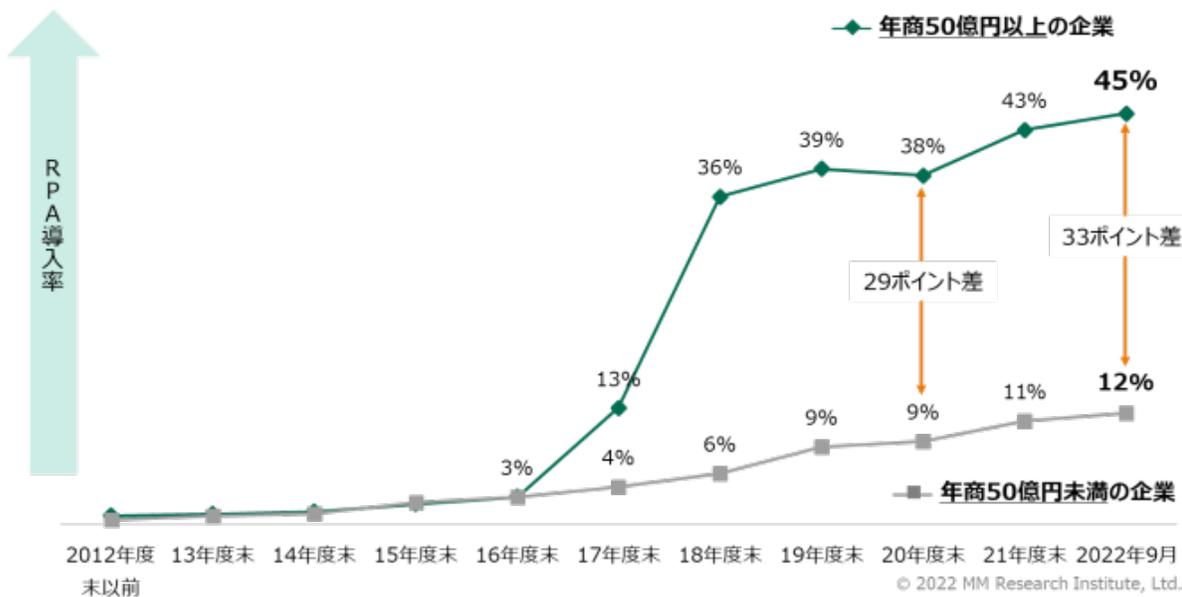
国や自治体による制度 の後押し



国・自治体からのIT導入補助金や助成金などの支援制度が、企業によるRPAの導入を促進しています。これらの支援制度により、特に中小企業の初期投資の負担が軽減され、生産性の向上やDX推進に必要なデジタル化への取り組みが加速しています。

日本国内でのRPA導入率は、年商50億円以上で45%で、準備中・検討中企業も約20%いるため、今後も導入率は伸びるとみられています。一方、年商50億円未満の企業では導入率12%と年商50億以上の企業より低めではあるものの、徐々にRPAの活用率は伸びている傾向にあります。

また、スターティアレイズ株式会社（以下、弊社）が2023年に行った「RPAツール導入に関するアンケート」によると、**14%以上のユーザーが既にRPAを導入しており、検討層を合わせると19%以上に及ぶ**ことが分かりました。RPAを導入する企業は今後も伸びていくとみられます。



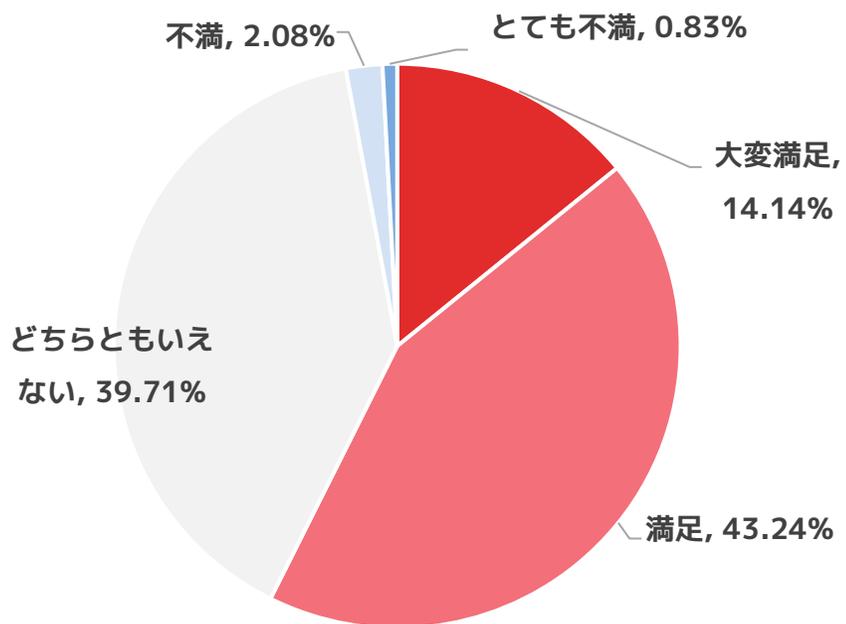
【出典元】
株式会社MM総研： <https://www.m2ri.jp/release/detail.html?id=557>

【出典元】
スターティアレイズ株式会社：【2023年度版】RPAツール導入に関するアンケート 調査結果レポート

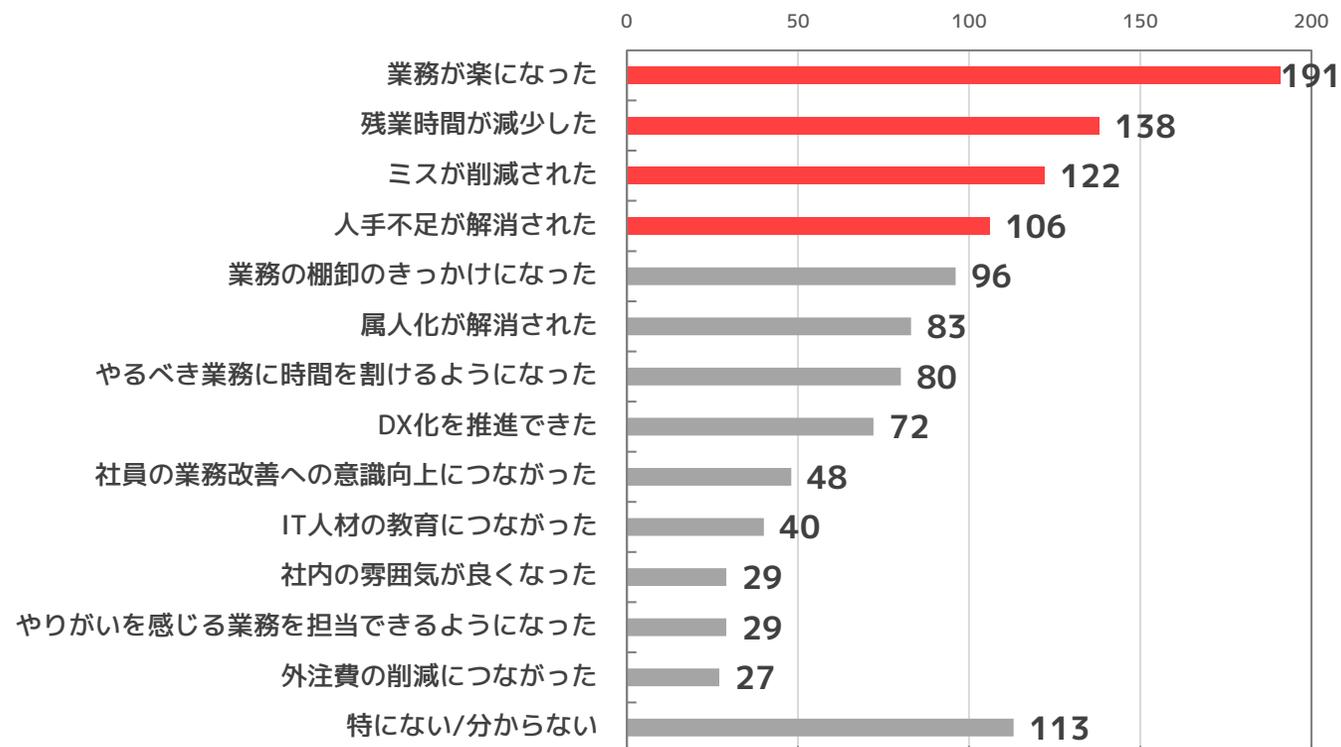
弊社が行ったアンケート調査によれば、RPAの導入において、「大変満足」「満足」と評価するユーザーが57.38%であり、「不満」「とても不満」と感じるユーザーは3%未満と報告されています。この結果から、導入による成果や効果を感じているユーザーが多いことが明らかです。

導入後の成果・効果においては、RPAが働き方改革や人材不足、DX推進に積極的に貢献していることが確認されています。

RPA導入における満足度



RPA導入により実感している成果・効果



【出典元】
スターティアレイズ株式会社：【2023年度版】RPAツール導入に関するアンケート 調査結果レポート

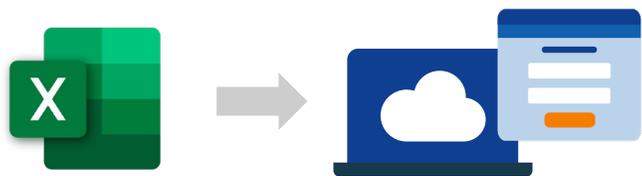


- 01 RPAとは
- 02 RPAが注目される理由・市場
- 03 RPAの基礎知識**
- 04 RPAの種類
- 05 RPA導入のステップ
- 06 導入事例
- 07 よくある質問・AIやiPaaSとの違い
- 08 RoboTANGOについて

RPAならパソコン上で表示ができるソフトウェア・アプリケーションはすべて操作が可能です。下記のような単純作業を組み合わせることにより、日次・週次・月次における定型業務を自動化することができます。

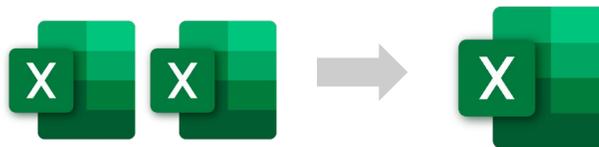
データ入力・転記

システムへの入力・転記やデータベースの更新など、繰り返し発生するデータ関連の作業を自動化できます。



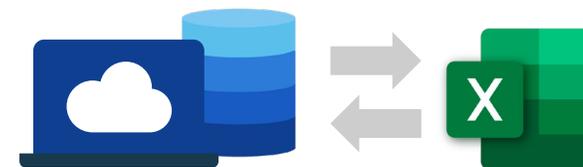
データ集計・加工

Excel内のデータを集計したり、複数のファイルを一つに取りまとめたり、加工・編集を行います。



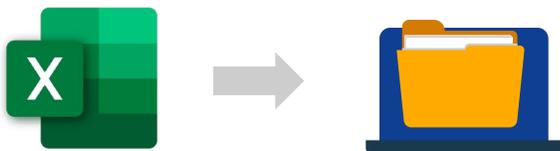
データ抽出・インポート

文書やシステムからデータやCSVを抽出し、必要な形式に変換したりインポートしたりすることができます。



ファイル操作

特定のデータをファイルに保存、またはファイルの作成、変更、削除などファイル関連の操作を自動化できます。



メール・チャットへの送信・通知

自動化の開始・終了を通知したり、作成したファイルをメールに添付し特定の宛先に送付したりできます。



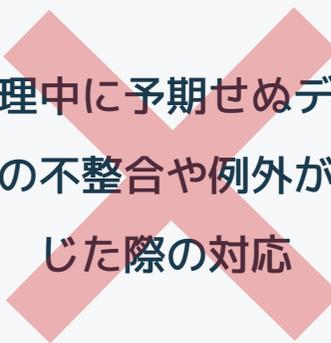
ウェブスクレイピング

ウェブサイト上の情報を抽出して処理をおこなうことができます。

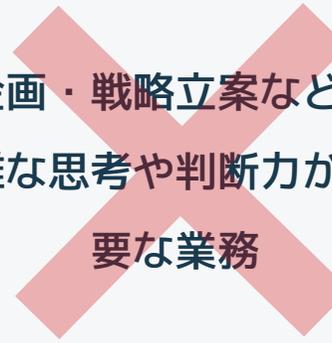


RPAは、予め設定されたルールや手順以外の処理、戦略的な思考や複雑な意思決定、顧客サービスやカウンセリングなど感情の理解や対人スキルが求められる業務など人間の判断が必要となる業務は、RPAではできません。

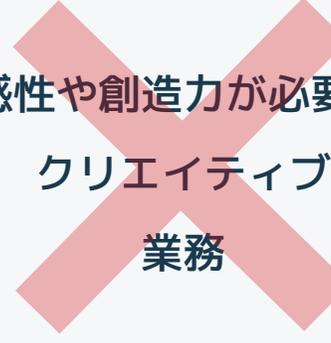
※ただし、RPAとAIなどを組み合わせることで自動化の範囲を拡大し、より複雑なタスクに対応させることは可能です。



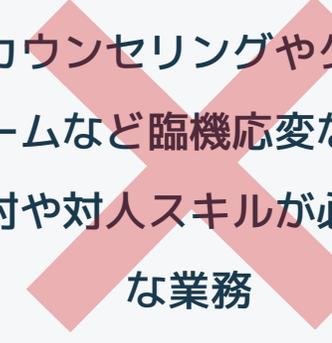
処理中に予期せぬデータの不整合や例外が生じた際の対応



企画・戦略立案など複雑な思考や判断力が必要な業務



感性や創造力が必要なクリエイティブ業務



カウンセリングやクレームなど臨機応変な対応や対人スキルが必要な業務

RPAの導入を検討する際は、RPAができる範囲を理解し、自動化するプロセスを適切に選定することが成功の鍵となります。

RPAでできる具体的な作業例（1）

RPAでよく自動化されている作業内容の例をご紹介します。下記以外にも手順が決まっている作業であれば自動化することが可能です。

システムへの入力・転記作業



Excelデータの集計・加工



システムからの売上データ ・ 帳票ダウンロード



添付ファイルの保存



入金データの消込・突合



ECサイトと社内システムの データ連携



ステータス変更



帳票のメール送付・通知



RPAでできる具体的な作業例（2）

RPAでよく自動化されている作業内容の例をご紹介します。下記以外でも手順が決まっている作業であれば自動化することが可能です。

在庫管理



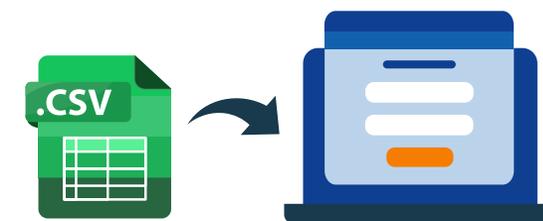
データの印刷作業



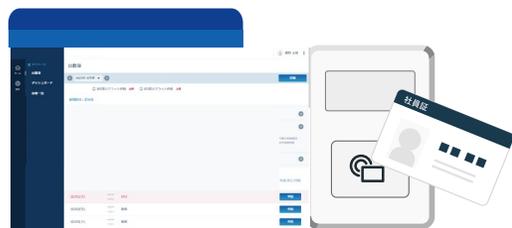
インターネット上の 情報収集



システムへの 商品情報登録・更新作業



勤怠管理業務



フォームからの 注文書作成



電子帳簿保存法対応



従業員の入退社処理





例えば...



経理部門

- 伝票のデータ入力
- 帳票の作成
- 経費精算の処理
- 入金の消込・突合
- 社内基幹システムへの入力
- 財務レポート・報告書の作成
- 電子帳簿保存法
- インボイス対応



人事・総務部門

- 勤怠管理
- 給与計算
- 残業時間算出
- 採用業務
- メール配信
- 人事評価
- 入社・退職の手続き業務



営業部門

- 見積り書の作成
- 競合情報収集
- 営業レポート作成
- メール送信
- 受発注管理業務
- 見込み顧客リストの作成



マーケティング部門

- アンケートデータ収集、解析
- WEB広告・アクセス解析・メールマーケティングなどのレポート作成
- ECサイトへ商品登録
- リード情報の登録
- レポートダウンロード

※業務内容は一例です

RPAは業種・職種問わず幅広い分野で活用することが可能です。

RPAツールを導入しただけでは業務の自動化はできません。

シナリオと呼ばれる一連の業務の流れやルールをロボットに記憶させることでRPAは稼働することができます。

シナリオを作成することで、そのシナリオに沿ってロボットが同じ動作を何度も繰り返して実施する仕組みになっています。

最近ではパソコン画面で人間が行った操作を録画してシナリオを作成できるものもあるため、詳しい知識がないユーザーでも簡単に運用することが可能です。

<RPAを稼働させるまでの流れ>



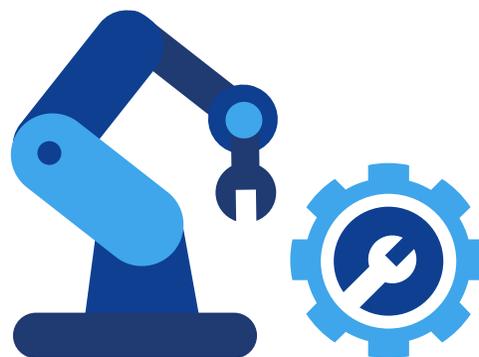
RPAは、自動化する業務を「記録」して「実行」させる機能と、作成されたRPAロボットを「編集」する機能を主要な特徴として備えています。これらの機能は、ユーザーがプログラミングの専門知識がなくても、簡単に業務プロセスを自動化できるように設計されています。



記録

自動化したい作業をRPAロボットに覚えさせる機能です。

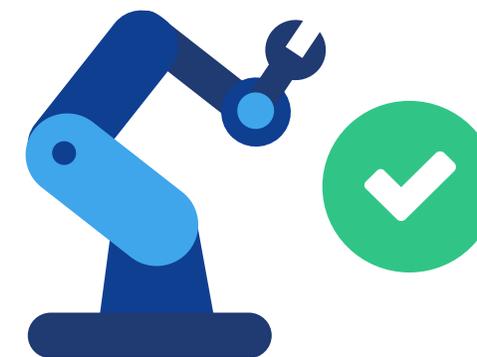
レコーディング機能がついているRPAならマウスやキーボード操作など人間がパソコン上で行った操作を簡単に記録できるため初心者でも比較的容易に記録させられます。



編集

記録したRPAロボットを編集したり、カスタマイズするための機能です。

作業対象のシステムの画面が変更になったり、自動化の作業を追加したかったり、何らかの理由でエラーが出た際に修正を行うことができます。



実行

作成されたRPAロボットを起動し、処理を実行するための機能です。

任意のタイミングで手動で実行させる方法のほか、スケジュールやトリガーによる自動実行機能を備えているRPAもあります。

2000s



RPA (Robotic Process Automation) は2000年頃に登場しました。

当初、RPAでの業務プロセスの自動化は主に金融機関や大規模なエンタープライズ向けの製品として提供されていました。当時のRPAは複雑で高価なことから、中小企業にはハードルが高いものでした。

2010s



2010年代に入ると、RPAが注目を浴び始めました。業務プロセスを自動化するため、柔軟性と手軽さを提供しはじめたためです。

日本におけるRPAの普及・浸透については、2016年の働き改革の取り組みが意識されはじめたことや、RPAという言葉も有名になってきたことから徐々に企業に普及しはじめました。

2020s~

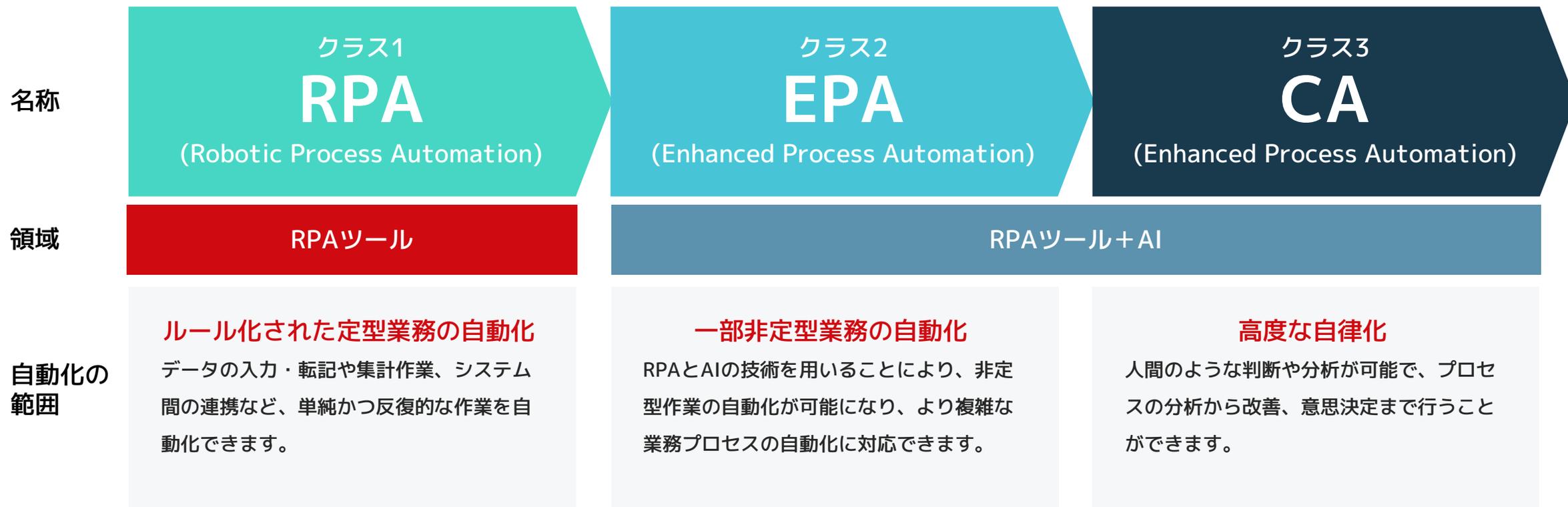


RPAは主にルール化された業務を自動化することを得意としていますが、将来的には人工知能 (AI) との統合が進み、業務プロセスにおける変化や新たな課題にも柔軟に対応できるツールも増えていくことが期待されます。昨今では既にAI-OCRとRPAの連携により文書を文字データ化し、内容に基づいて適切な処理を行うことができるようになってきているので今後もこうした動きが加速していくでしょう。



- 01 RPAとは
- 02 RPAが注目される理由・市場
- 03 RPAの基礎知識
- 04 RPAの種類**
- 05 RPA導入のステップ
- 06 導入事例
- 07 よくある質問・AIやiPaaSとの違い
- 08 RoboTANGOについて

RPAには3段階の自動化レベルがあります。現在のRPAの多くは「クラス1：RPA」というレベルで定型業務に対応しています。次のレベルの「クラス2：EPA」は、AIと連携して非定型業務の一部が自動化されます。「クラス3：CA」は、より高度なAIと連携することで、業務プロセスの分析や改善だけでなく意思決定までを自動化できます。本ガイドブックでは「クラス1：RPA」をベースに解説します。



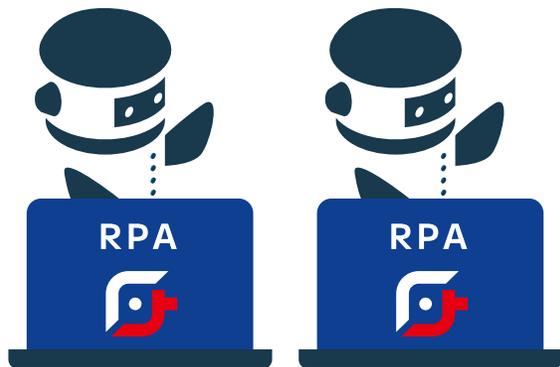
※【出典元】総務省：https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02tsushin02_04000043.html

RPAは「サーバー型」「デスクトップ型」「クラウド型」の3種類

RPAは大きく分けて「サーバー型」「デスクトップ型」「クラウド型」の3種類に分類することができ、それぞれ特徴、対象業務、対象企業、難易度、価格帯が異なります。次ページに各RPAの種類における詳細情報を解説します。

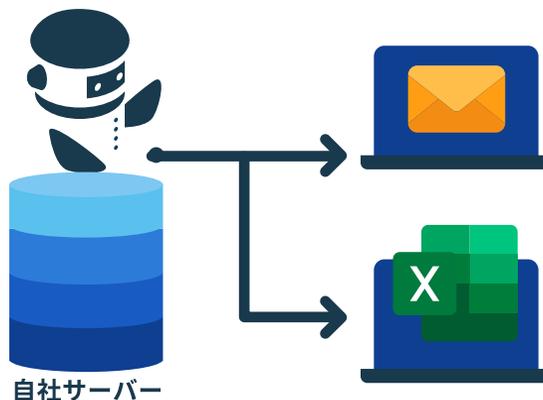
デスクトップ型 RPA

個人または特定の PC ごとに
作業を自動化



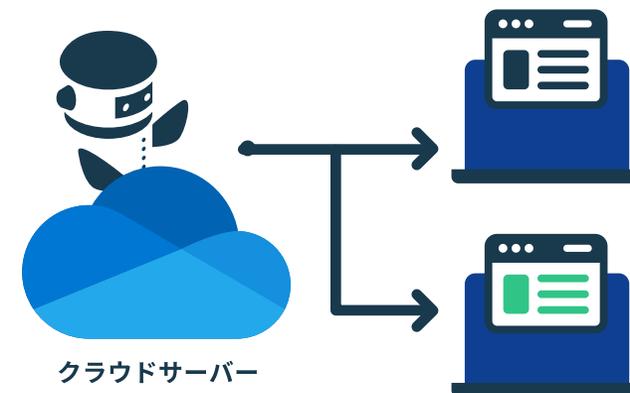
サーバー型 RPA

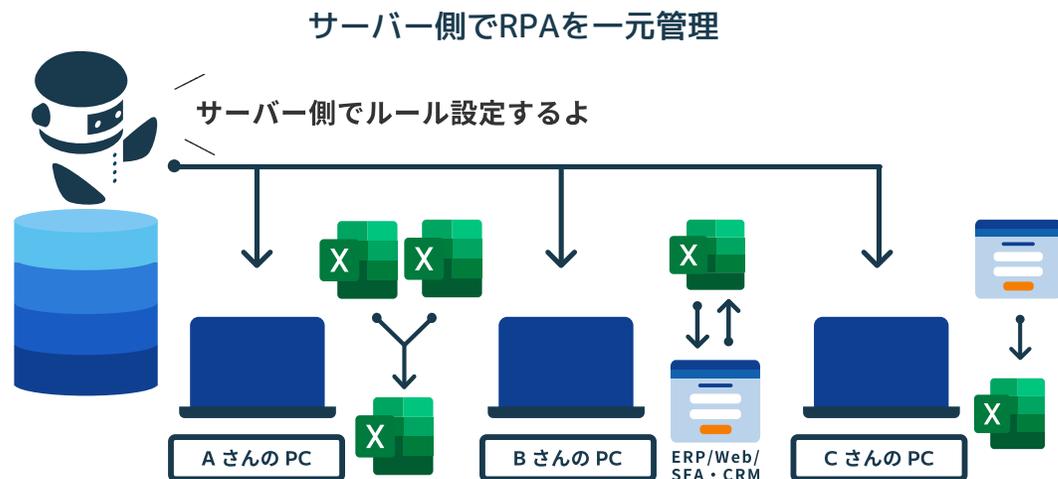
自社サーバーに RPA が設置され、
管理・実行指示はサーバー側で行う



クラウド型 RPA

Web ブラウザ上での作業を
自動化



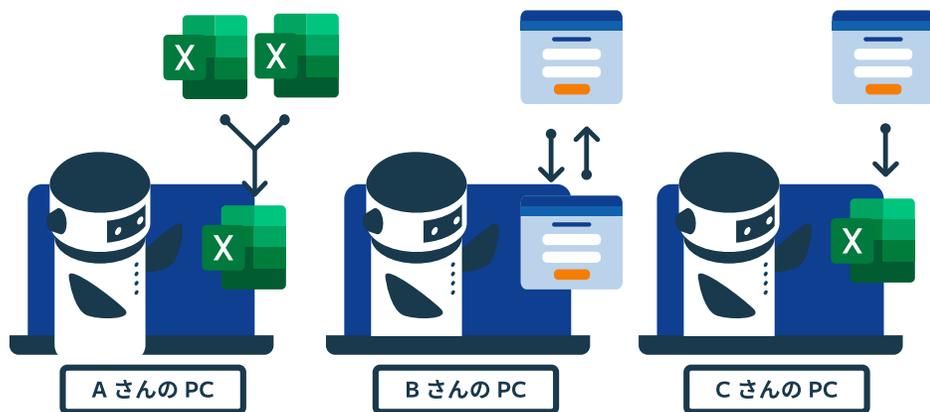


サーバー型RPAは、サーバー上で動作し、多数のパソコンやアプリケーションを横断して業務プロセスを自動化するツールです。中規模から大規模なプロジェクト、複数ユーザーによる業務プロセスの自動化に適しています。

自社サーバーにRPAを設置できることからセキュリティ面での安全性や大規模な稼働が可能なため、大手エンタープライズ企業や保険業や金融機関でサーバー型が多く導入されています。

特徴	作業範囲・対象業務	運用規模と利用者	作業難易度	導入コスト	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 自社のサーバーにRPAが設置され、管理・実行指示はサーバー側 ● 各クライアントPCと接続することで業務を管理・自動化し、一度に大量のデータを処理することが可能 ● IT管理者が一元管理 ● ローカル環境やローカルネットワークとのシステム間のデータ連携に有用 	<ul style="list-style-type: none"> ● Webブラウザ ● 社内サーバー ● ローカル環境 <p>での作業すべて可能</p> <p>複数のシステム間でのデータ連携や処理、バッチ処理、定期的な報告書作成など、企業全体での効率化を目指す業務を対象とします。</p>	<p>【利用規模】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中～大規模 <p>【利用対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 組織全体 ● 情報システム主導の利用 <p>中規模から大規模な企業で、組織全体の業務プロセス効率化を目指す場合に適しています。</p>	<p>難易度は中～高。</p> <p>サーバー型RPAは、システム管理者やIT部門による運用になります。また、複数のアプリケーションやシステム間でのデータ連携を自動化するため、より複雑なロジックの設定や高いプログラミングスキルが求められます。</p>	<p>サーバー構築から必要なため、数百万円から数千万円の初期投資が必要な場合が多く、運用コストも発生するため高額になります。</p>	<p>初期投資が比較的高く、サーバーで管理するため自部門や担当者によるRPA運用はできません。</p> <p>導入してから運用までの期間が長く、導入や管理が複雑になることがあります。</p>

個人または特定のパソコンごとに作業を自動化



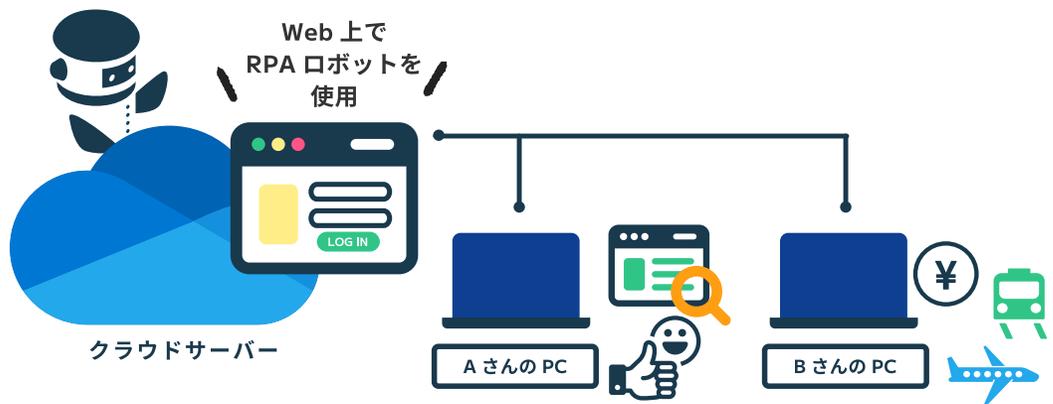
デスクトップ型RPAは、各デスクトップ上の作業を自動化するタイプであることから、個人または部門単位での業務効率化に最適です。専門的なスキル・知識が不要なツールが多く、比較的安価かつ容易に導入～運用することができます。

インストールするだけですぐに運用できることからスモールスタートでの運用を始めたい方にもおすすめです。

保険業や金融機関ではサーバー型が多く導入されていますが、中小企業のRPA導入ではサポートやセキュリティも安心な国産のデスクトップ型RPAが選ばれるケースが多く見られます。

特徴	作業範囲・対象業務	運用規模と利用者	作業難易度	導入コスト	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 個人または特定のパソコン上で作業を自動化 ● 各パソコン上で繰り返し行う単純な業務プロセスの自動化に最適 ● 各端末ごとに違う処理が可能 ● パソコン1台に対しロボット1体をインストール ● ローカル環境やローカルネットワークとのシステムのデータ連携に有用 	<ul style="list-style-type: none"> ● Webブラウザ ● 社内サーバー ● ローカル環境での作業すべて可能 <p>データ入力・転記、データ収集や抽出・加工、アプリケーション間のデータ移行など、個人や部門単位での作業効率を高めることが目的の業務を対象とします。</p>	<p>【利用規模】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小規模～中規模 <p>【利用対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部門単位 ● 現場担当者 <p>特に小規模・中小企業で特定の業務プロセスを自動化したい部門で有効。</p>	<p>難易度は比較的低いです。</p> <p>GUIベースのツールが多く、専門知識やプログラミングスキルが不要で、エンドユーザーが直感的に操作できるツールが多いです。</p>	<p>費用は比較的安価なものが多いです。</p> <p>ライセンス費用は数万円から利用でき、機能や規模に応じて変動します。</p>	<p>スケールアップや組織全体での利用拡大が難しく、管理や監視機能が限られている場合が多いです。</p> <p>また、RPAの稼働中はパソコンを占有してしまうため、他の作業をすることが難しいです。</p>

クラウドサービス上でRPAロボットを作成・稼働する



クラウド型RPAは、クラウドサービスとして提供されているRPAツールです。インターネット環境さえあれば、どこからでもアクセスしてRPAロボットを管理・実行できるため高い柔軟性が特徴です。デスクトップ型RPAと同様に、導入後は迅速な運用が可能のためスタートアップでの運用を始めたい方におすすめです。

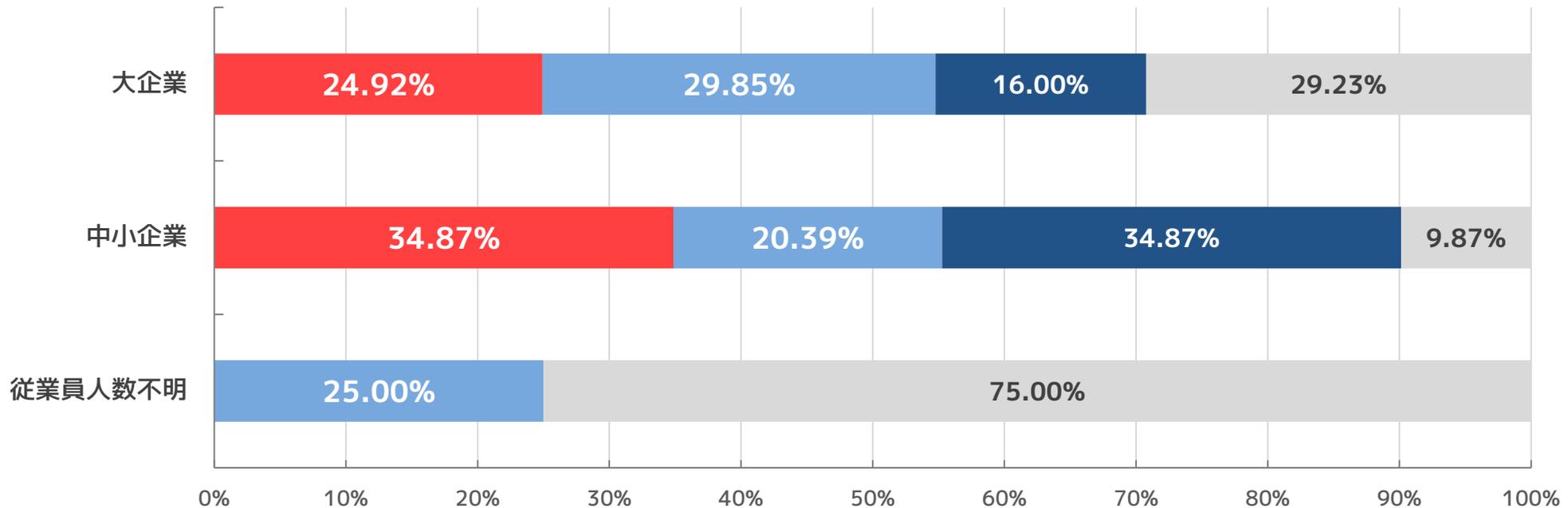
営業、マーケティング、人事をはじめ、リモートワークや分散したチームが協力して業務を行う場合や、スピーディなビジネス展開を求めるスタートアップや大手企業での採用が増えています。

特徴	作業範囲・対象業務	運用規模と利用者	作業難易度	導入コスト	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的にはクラウドサーバー上でのみRPAが稼働 ● Webブラウザ上の作業を自動化 ● ベンダーによってアップデートやメンテナンスが行われるため、最新の機能を常に利用でき、システムの維持管理が容易 ● クラウドサービスのためどこからでも操作が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● Webブラウザなどのクラウド上の作業のみ <p>クラウドサービス間の連携、ソーシャルメディアの分析、マーケティングキャンペーンの効果分析、Webサイトの情報収集などクラウド上での自動処理。</p>	<p>【利用規模】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スタートアップ～大規模 <p>【利用対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部門単位 <p>特にスタートアップや成長段階の企業での導入が増えています。また、初期投資を抑えたい大企業でも採用されています。</p>	<p>難易度は低～中程度です。プログラミングなど専門の知識が不要なツールも多くありますが、併せてネットワークの安定性やセキュリティ対策も考慮する必要があります。</p>	<p>費用は比較的安価なものが多いです。ただしワークフローの実行数や時間、ロボットの作成数、アカウント数によって従量課金になっているところも多く、場合によっては高額になることがあります。</p>	<p>セキュリティやデータプライバシーの懸念、インターネット接続への依存度が高まります。また、サーバー型やクラウド型と違い、RPAロボットの動きが見えないため正しい処理ができていないかチェックが困難です。</p>

規模でみる種類別RPAの導入割合

弊社が行った調査によれば、中小企業では「サーバー型」と「デスクトップ型」を利用している企業が34.87%で同率、大企業では「クラウド型」が最も多く割合を占め29.85%、次いで「サーバー型」が24.92%でした。「デスクトップ型」は安価で手軽に導入でき、プログラミングや専門的なIT知識が不要であることや、ローカル環境での活用が可能で既存システムとも比較的容易に連携できるため、規模が小さく少人数で業務を回している中小企業にとって最適な選択肢となっていると考えられます。

一方、大企業では「クラウド型」の採用率が最も高く、これはクラウドの特徴である柔軟性、スケーラビリティ、運用の容易さを重要視していると考えられます。「サーバー型」については、複雑な業務プロセスや大量のデータ処理を効率化するために、規模に関わらず多くの企業に導入されていることが分かりました。



【出典元】
スターティアレイズ株式会社：【2023年度版】RPAツール導入に関するアンケート 調査結果レポート

■ サーバー型 ■ クラウド型 ■ デスクトップ型 ■ 分からない

n = 481



- 01 RPAとは
- 02 RPAが注目される理由・市場
- 03 RPAの基礎知識
- 04 RPAの種類
- 05 RPA導入のステップ**
- 06 導入事例
- 07 よくある質問・AIやiPaaSとの違い
- 08 RoboTANGOについて

RPAを導入・運用するまでの一般的なステップ・流れには主に6つの工程があります。
RPAを比較検討される際は下記のフローに沿って進めることをお勧めします。



「目的」を明確化し、具体的な数値をROIとして設定しておきましょう。それにより目的の達成率を定量的に判断することができます。

自動化したい対象業務を選定・可視化し、RPAによる自動化に適した業務かどうか判断します。特に最初はROIが高く、比較的シンプルな（複雑でない）ものが好ましいです。

自社にとって最適なRPAツールを選定しましょう。自社の予算やリテラシーにあったサービスを選択し、既存システムとの連携、サポートの有無なども確認します。

トライアル利用では、機能面に過不足がないか、操作性・運用が容易であるか確認が必要です。対象業務の削減工数（想定）や自社のリソースをふまえて導入するかどうか判断します。

RPAを導入するとなった場合、いきなりすべて自動化しようとするのではなく業務に与える影響を最小限に抑えつつ実施していきます。併せて効果測定も行いましょう。

運用時にエラーや問題が発生した場合は速やかに対処します。成功したプロセスを元に自動化する業務を追加し、RPAをスケールアップしていきます。

RPAツールを選ぶ際に考慮すべきポイントは多岐にわたります。以下は、RPAツールを選ぶ際の主なポイントです。

1 機能性・拡張性

自動化したい対象業務に適した機能が備わっているか、利用規模に合っているか、過大な機能ではないか、自社でカスタマイズが可能かどうかを確認します。

2 コスト

初期費用、ライセンス料金、運用・保守を含む全体のコストを把握し、予算内で収まるか確認します。また、業務効率化できるコスト分より過剰にならないように注意します。

3 操作性・使いやすさ

プログラミングスキルや専門知識がないユーザーでも直感的に操作できるか、使いやすいか、メンテナンスが容易かどうかをトライアルで確認しましょう。

4 セキュリティ

データ保護とプライバシーの観点から安全性が確保されているかチェックしましょう。クラウド型RPAはクラウドサービスであるため特に確認が必要です。

5 サポート体制

サポートサイトの日本語対応はじめ、トラブルやエラー発生時に速やかに対応してもらえるか、どのような対応方法になるのかなど、ベンダーのサポート体制も重要な選定基準です。

6 RPAの種類

デスクトップ型RPA、サーバー型RPA、クラウド型RPAの中から、自社の業務プロセスや運用モデルに最適なタイプを選択することが重要です。

RPAツールを導入するにあたり、注意すべきポイントを解説します。

1 適切なプロセスの選定

自動化に適したプロセスを選定することが重要です。決まったルールや手順に基づく業務、または繰り返し行われる単純作業が理想的です。過度に複雑なプロセスや頻繁に変更が必要なプロセスは、RPAロボットの開発と管理を複雑にするため、適しません。

2 運用体制を明確にする

- 業務プロセスやメンテナンスがブラックボックス化するリスクを防止するため、運用マニュアル・ドキュメントを作成する
- RPAのメンテナンス方法
- エラー発生時の対応方法などの運用体制を予め明確にしておきます。

3 実現可能な目標値を設定

RPAは全ての問題を解決する魔法の杖ではありません。導入の目的と期待される成果を明確にし、実現可能な目標値を設定することが重要です。過度な期待を抱くと、システムを使いこなせていない初期段階でのギャップにより、「使えない」と誤った印象を持つリスクがあります。

4 費用対効果を計測する

投資対効果（ROI）を計算し、RPA導入の費用対効果を計測します。
例えば、導入前後の作業時間の計測をはじめ、得られたベネフィット・副次的効果を計測します。

5 スモールスタートで導入

業務には自動化しやすい部分とそうでない部分があるため、いきなり最初から最後まですべてを自動化しようとするとうまくいきません。簡単ですぐに自動化できることからスモールスタートで運用を始めます。

6 サポートコンテンツを活用

お問い合わせ窓口以外にも、ベンダーによってRPAの使い方セミナーなどを開催していたり、動画コンテンツを公開していたりするため、積極的に活用して操作スキルを向上しましょう。



- 01 RPAとは
- 02 RPAが注目される理由・市場
- 03 RPAの基礎知識
- 04 RPAの種類
- 05 RPA導入のステップ
- 06 導入事例**
- 07 よくある質問・AIやiPaaSとの違い
- 08 RoboTANGOについて

在庫状況の更新や品番変更、電子帳簿保存法対応業務などの業務を自動化し、サービスの質向上と業務効率化を実現

ホテル・レストランの業務用食器を中心に1,2000点を生産・販売されている食器メーカー、光洋陶器株式会社（以下同社）。同社では、属人化による業務が非効率であったり、各システムの連携に多くの手間を要していたり、社内リソース不足による外注コストが1回あたり数十万円かかってしまうなど課題を抱えていました。そこで、RPAの導入を進め、ルーティンワークの自動化や電子帳簿保存法対応を実施。効率化を果たすことでルーティンワークからの開放、お客様対応に集中できる環境の実現によるサービス品質の向上、定型業務における外注費削減などに成功しました。

BEFORE

- 業務の属人化によって、担当者不在時には業務が滞ってしまっていた
- システム連携など手作業で行っていたため、多くの手間がかかっていた
- 業務を中断して行う作業が多々発生していた

AFTER

- 外注していた業務を自動化することで対象業務の外注費をゼロに削減することに成功
- ECサイトの在庫状況を時間外でも更新が可能に
- 手作業で実施していた業務の自動化を実現
- 電子帳簿保存法への対応業務を自動化

RPA導入による成果物

1. 生産手配書の印刷や売上管理ファイルの作成、商品品番変更などさまざまな業務を自動化し月間40時間以上の削減を実現
2. 自動化したことで時間による縛りがなくなり、業務が中断されることが大幅に減少
3. 顧客対応に集中できるようになったことからお客様対応の質が向上
4. 業務効率化や働き方改革への取り組みにより、ブランドイメージ、企業イメージが向上

業務の属人化や外部委託コスト、作業中断による精神的負担...



単調な作業をRPAで自動化し、コスト削減・リソース不足を解消できないか？

RPA導入でお客様対応の質向上、外注コストの削減



RoboTANGOと他社RPA2台を業務時間帯によって使い分け

- ✓ 70個のロボをフル活用
- ✓ 時間による縛りがなくなり業務を中断することが大幅に減少
- ✓ お客様対応におけるサービスの質向上につながった
- ✓ 作業工数月間 **40** 時間以上削減

10人の会社で月20万円以上のコストカットを実現。

140時間の入力時間を全て営業活動の時間へシフトし、結果売上UPへ。

神奈川県鶴見に本社を構え、建設資材や建築資材の販売を行っている、株式会社鶴見の飯田（以下同社）。同社では、既存業務システムの定型入力業務にかかる手間、時間が大きな負担となっていました。そこで、業務効率化を目的として、RPAの導入を決意。導入後は、パート1名分の作業と社員作業合わせて140時間以上が0になり、社員の労働時間が減り、本来行うべき業務に集中できる環境構築に成功しました。また、RPAの導入がこれまでのランニングコスト削減にもつながったとのこと。

BEFORE

- 入力業務だけで月に140時間もかかってしまっていた
- 入力業務に手間を取られ、本来やるべき営業業務が行えていなかった

AFTER

- 大幅なコスト削減を実現
- 残業時間が削減され社内の雰囲気明るくなった
- 入力作業が減り、本業に集中できる時間が増えた

RPA導入による成果物

1. RPAの導入でランニングコスト年間100万円の大幅削減を実現
2. 入力作業が自動化されたことで残業時間の削減を実現
3. 社員の精神的負担軽減・お客様への対応迅速化
4. 社内の雰囲気が明るくなった
5. 本来の業務に集中できるようになったことでの従業員満足度向上

月 140 時間の膨大な入力作業



導入前の課題

- ✓ 本来やるべき業務に注力できていなかった
- ✓ 残業時間による社員の負担増

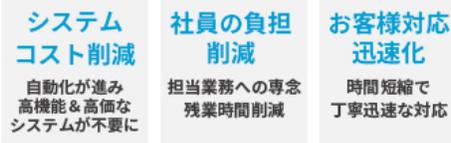
使いやすさ・UIが抜群！
展示会にて RoboTANGO に即決



- 4～5社で比較検討し、RoboTANGOに決定
- 費用対効果が出せるかじっくり確認
- 導入支援サービス^(※)利用で活用スピードアップ

※業務把握・改善案を含むロボ制作の有償支援サポート

ランニングコスト削減
社員の精神的負担軽減



RoboTANGO導入後の社内効果

社内の雰囲気が明るく
従業員満足度が向上

— 打合せ・情報共有の時間増加

RPA導入、5ヶ月で150時間の工数削減を実現。 業務効率化とヒューマンエラー削減を同時に達成！

主にテレマーケティング・アウトソーシングやコールシステムアセット事業、コンタクトセンター業務を行っている鳥取県米子市に本社を構える株式会社マックスサポート（以下同社）。同社では、コンタクトセンター業務での問い合わせ内容報告業務のほとんどが手作業のため、手間がかかるうえにミスが起こりやすいといった課題を抱えていました。そこで、RPAを導入し、21個のロボットを効果的に活用。導入からわずか5ヶ月で月150時間の工数削減を実現。業務効率化とミスの削減を達成されました。

BEFORE

- 問い合わせ内容の報告業務のほとんどが手作業のため、手間がかかりミスも多かった
- 手作業の確認を行うための業務など管理工数の削減が急務であった

AFTER

- 大幅な工数削減を実現
- 報告作業の多くが自動化され、ヒューマンエラーが減った
- コスト管理に対する責任者の意識改革がなされた

煩雑な手作業での報告業務

1日に150～200件の問い合わせ処理

— オペレーター — — 責任者 —



- ✓ 膨大な問合せ処理
- ✓ 手作業での報告業務



- ✓ オペレーター帰宅後作業内容をチェック



業務効率化とヒューマンエラー削減 同時に達成！

現在 21 個のシナリオを効果的に活用

月 150 時間の
工数削減

ダブルチェックが
不要に

人件費削減

コスト管理に対する
責任者の意識向上

RPA による
自動作業

- ✓ 報告作業の多くが自動化
- ✓ ヒューマンエラー削減
- ✓ コスト管理に対する意識改革

RoboTANGO 選択の決め手は？

価格が安い・使い勝手が良い
容易にロボット作成が可能

- ▶ すぐにトライアルができる
- ▶ RPA の知識がなくてもシナリオ作成が可能
- ▶ 管理者と実行者の権限に垣根がない

今後の
展望

現在のシナリオを突き詰めて
RoboTANGO の販売代理店へ



RPA の強みや弱みを把握し成功事例を
積み重ね販促材料として活用

今以上に成果を上げて RPA を広めたい

RPA導入による成果物

1. 導入してすぐに月間100時間の工数削減を実現、さらに導入5ヶ月で150時間の工数削減を達成
2. RPAによる自動化でヒューマンエラーが大幅に低減し、オペレーターが帰宅した後の管理者のダブルチェックが不要に
3. 管理者の残業時間削減
4. 責任者のコスト管理への意識向上

医療業界での手書き書類や電子カルテの処理業務にAI-OCRとRPAを活用し 年間1,800時間の作業工数を削減。医療DX推進を実現。

首都圏を中心に17の在宅診療・外来診療のクリニックを展開する医療法人社団平郁会様（以下同会）。同会では他製品のRPAを活用していたものの、ロボの構築・運用は外部に委託していました。しかし保守契約を結んでいた委託先がサービスをクローズすることになり自社で扱えるRPAを求め、「RoboTANGO」を導入。さらに電子カルテの処理業務の効率化を目指しAI-OCR「DX Suite」も合わせて導入し、電子カルテ業務のデジタル化を推進。手作業の多くを自動化させ年間で約1,800時間の作業時間削減により大幅な効率化を実現しました。

BEFORE

- RPAロボットのメンテナンスの度に外注先に依頼をしなければならなかった
- RPAロボットの作成・保守を依頼していた外注先が保守サービスをクローズすることになった
- 元々利用していたRPAでは操作が難しかった

AFTER

- 簡単な操作性でRPAロボットの完全内製化を実現
- AI-OCRによりカスタマーサポート業務の効率化が実現した
- 定型業務を自動化したことで、年間1,800時間の作業時間が削減された

RPA導入による成果物

1. 電子カルテ周りの業務を自動化したことで年間1800時間の作業工数を削減
2. 入金の実作業自動化や紙媒体の文字データ化で医事科やCSなど幅広い部門で業務の効率化を実現
3. 従業員の精神的負担軽減
4. 患者の処方箋データの分析など今まで出来なかった業務ができるようになった
5. 定型業務を自動化したことで、できる業務の枠が広がり、従業員満足度が向上

RPAのロボ作成～保守を委託していたが委託先が保守サービスを終了してしまう



- ✓ 操作が簡単で扱いやすい
- ✓ 1ライセンスで複数台のPCで使える
- ✓ RoboTANGOとシナジーの高いAI-OCR
- ✓ 複雑な業務も自動化が可能
- ✓ サポートが充実している

RoboTANGOを導入 + 「DX Suite」を導入

電子カルテの処理や手書き書類の処理業務で年間 1,800 時間削減

こんな業務を自動化

- 17クリニック分の検査データを電子カルテにアップロード**
手作業で1日8回、365日作業しており、20時間/月かかっていたがゼロにまで削減。
- 全患者の処方情報を抽出（分析に使用）**
3か月に1回7,000件の処理を手作業で行い、175時間かかっていたが、RPAによりゼロにまで作業時間を削減。
- 請求先の情報を電子カルテのサマリー画面に入力する作業**
1日15枚の手書き書類の処理を毎営業日実施し、25時間/月かかっていたがAI-OCRとRPAを活用し、ゼロにまで削減。
- 電子カルテに職員のコピー登録作業**
20人/月程度の職員情報を電子カルテに登録する作業を自動化し10時間/月の作業時間がゼロに削減。
- 入金情報と電子カルテの収納情報の突合・消込作業**
手作業で行くと36時間かかるファイルの突合から消込作業をRPAで自動化し作業工数を削減。

社内展開の工夫

RPA化を進める前に業務のオペレーションを整える



- ✓ 作業に無駄がないか
- ✓ フォーマットの見直し
- ✓ メンテナンスが少なく済むように調整

今後も医療DXを推進

新たなソリューションやトレンドを取り入れてDX化を強化していく



- 01 RPAとは
- 02 RPAが注目される理由・市場
- 03 RPAの基礎知識
- 04 RPAの種類
- 05 RPA導入のステップ
- 06 導入事例
- 07 よくある質問・AIやiPaaSとの違い**
- 08 RoboTANGOについて

No.	質問	回答
1	RPAロボットを作成した数や、実行した回数分だけ費用がかかりますか？	提供するベンダーやライセンスモデルによって大きく異なりますが、一般的に、サーバー型やデスクトップ型RPAの場合はライセンス単位の（RPAロボットの作成数や実行回数は関係ない）ものが多いです。対して、クラウド型RPAの場合は、サブスクリプションモデルが多く、ロボットの数や実行回数に応じて費用がプラスで発生することがあります。
2	一度作成したRPAロボット（シナリオ）を他のパソコンでも利用したい場合、一から作成する必要がありますか？	一度作成したRPAロボット（シナリオ）を他のパソコンで利用する場合、一から作成する必要はございません。多くのRPAツールでは、開発したスクリプトやシナリオをエクスポートし、他のパソコンにインポートする機能を提供しています。同じロボットを利用する想定がある場合は、ロボットを共有できる機能を搭載しているRPAツールを選択することをおすすめします。
3	RPAはパソコン端末固定ですか？	サーバー型RPAおよびクラウド型RPAは基本的にパソコン端末に依存しません。 デスクトップ型RPAの場合、ライセンスが端末に紐付けら（固定さ）れている場合と、複数台のパソコンにインストールできる（フローティングライセンス）場合がありますので、デスクトップ型RPAで複数台で利用されたい場合は、事前にライセンス形態の確認が必要です。
4	RPA稼働中はパソコンを占有しますか？	サーバー型RPAおよびクラウド型RPAは基本的にパソコンを占有しませんので、稼働中でも作業を続けることが可能です。 デスクトップ型RPAの場合のみ、ユーザーのデスクトップ上で直接稼働するため、他の作業をすることが困難になることがあります。そのため、デスクトップ型RPAを利用しているユーザーは勤務時間外または別のパソコンでRPAを稼働させて利用しているケースが多く見られます。
5	RPAでExcelやAccess、自社の業務用システム、WEBサイトなどは操作可能ですか？	デスクトップ型RPAなら、ユーザーのパソコン上で利用できるシステム・アプリケーション（クラウドサービス、業務用システム、Excelなど）なら操作が可能です。 サーバー型RPAの場合、サーバー上で動作するため、サーバーにインストールされたアプリケーションや、サーバーからアクセス可能なシステムなら可能です。 クラウド型RPAの場合、基本的にインターネット上のアプリケーション、WEBサイトを操作するためローカルアプリケーションの操作は難しいです。中には限定的なアプリケーション（Excel Onlineなど）が利用可能なツールもあります。
6	RPAにはトリガー機能やスケジューラー機能はありますか？	スケジューラー機能が標準で組み込まれていたり、オプションとしてスケジューラー機能やトリガー機能が提供されていたりしますが、RPAツールがこの機能を持っていない場合でも、Windows OSの「タスクスケジューラ」という標準機能を使用することで、類似の機能を利用することが可能です。

RPAは繰り返し行われるタスクを自動化するソフトウェアで、決められたルールに従って処理します。AIは膨大なデータから学習し、問題を解決・改善します。RPAは単純作業、AIは複雑な判断に適しています。

	RPA	iPaaS
目的	ルールベースやルーティン業務など手作業のタスクを自動化。	システムやアプリケーション間の連携。
対象範囲	パソコン上でのデータ入力・画面の操作・ファイル処理など人手で行われる様々な作業を自動化する。	異なるシステムやクラウドサービスでデータの移動、変換、同期、連携を行い、自動化を図る。
自動化の手段	ユーザーが行っているパソコンの操作やタスクをRPAロボットが模倣する形で自動化を実現。	主にAPI連携によって、異なるシステムやアプリケーション間でデータの受け渡しや連携を行う。
得意なこと	<ul style="list-style-type: none">ITの知識が深くなくても操作可能APIがなくても連携が可能のため、オンプレミスでもクラウドでも連携できる	<ul style="list-style-type: none">入力や更新等をトリガーにして自動的に動き出す。クラウド上で動かす製品のため、管理者が一括して管理を行える主にAPI連携のため、GUI変更の影響を受けない
不得意なこと	<ul style="list-style-type: none">GUIの変更があった場合、随時RPAロボットの修正が必要自動処理中はパソコンを占有する	<ul style="list-style-type: none">APIが提供されていないサービスには対応不可オンプレミスとの連携が難しい

RPAとマクロ（VBA）の違いとは？

RPAは複数のアプリケーションやシステムでのルーティン業務や繰り返しタスクを自動化するためのソフトウェアです。一方、マクロ（VBA）は主にMicrosoft 製品内の作業を自動化します。

RPAは幅広いアプリケーション間の自動化に対応しており、マクロはMicrosoft製品内のタスクに特化しています。

	RPA	マクロ
自動化できる範囲	ウェブサイトのスクレイピング、複数のソフトウェア間でのデータ連携、データ集計、メール処理、PDFからのデータ抽出など、幅広いアプリケーションにまたがるタスクに対応。	主にExcelスプレッドシートのデータ処理、レポートの自動生成、Word文書やPowerPointプレゼンテーションのフォーマット変更など、Microsoft Office内の作業に限定。
知識・技術	プログラミング知識が少なくても使用できるケースが多い。	基本的なプログラミング知識（特にVBA言語）が必要
柔軟性	異なるアプリケーションやシステム間をまたいで作業を自動化できる。	Microsoft製品内の作業に特化しているため、その範囲内でのみ高い柔軟性と適応性を持つ。
コスト	数万円～数百万 ※RPAの種類による	ナシ ※ExcelがPCに入っていれば追加費用ナシ
他システムとの連携	AI-OCR,iPaaS,WEB-EDI,チャット/コミュニケーションツール,会計システム,SFA/CRM,基幹システム,ECサイト,販売管理システムなど	Excelマクロの場合、Microsoft製品内のみ

RPAとiPaaS（データ連携ツール）との違いとは？

RPAは主に繰り返し行われるルーチンタスクを自動化するソフトウェアで、人間が手作業で行っている作業をRPAロボットが記憶し、模倣します。

iPaaSは異なるアプリケーションやシステム同士をつないでシステム間のデータ連携を自動化するサービスです。

RPAはタスクの自動化に、iPaaSはシステムの統合に焦点を当てています。

	RPA	iPaaS
目的	ルールベースやルーティン業務など手作業のタスクを自動化。	システムやアプリケーション間の連携。
対象範囲	パソコン上でのデータ入力・転記、データ集計、画面の操作・ファイル操作など人手で行われる様々な作業を自動化する。	異なるシステムやクラウドサービスでデータの移動、変換、同期、連携を行い、自動化を図る。
自動化の手段	ユーザーが行っているパソコンの操作やタスクをRPAロボットが模倣する形で自動化を実現。	主にAPI連携によって、異なるシステムやアプリケーション間でデータの受け渡しや連携を行う。
得意なこと	<ul style="list-style-type: none">ITの知識が深くなくても操作可能APIがなくても連携が可能のため、オンプレミスでもクラウドでも連携できる	<ul style="list-style-type: none">入力や更新等をトリガーにして自動的に動き出す。クラウド上で動かす製品のため、管理者が一括して管理を行える主にAPI連携のため、GUI変更の影響を受けない
不得意なこと	<ul style="list-style-type: none">GUIの変更があった場合、随時RPAロボットの修正が必要自動処理中はパソコンを占有する	<ul style="list-style-type: none">APIが提供されていないサービスには対応不可オンプレミスとの連携が難しい



- 01 RPAとは
- 02 RPAが注目される理由・市場
- 03 RPAの基礎知識
- 04 RPAの種類
- 05 RPA導入のステップ
- 06 導入事例
- 07 よくある質問・AIやiPaaSとの違い
- 08 RoboTANGOについて**

RoboTANGO は、誰でも簡単に 作成・運用できる国産RPAツール

ロボタンゴは実務担当者にやさしいデスクトップ型RPA。
録画機能付きではじめてでも使いやすく、1つのライセンスを複数
PCにインストールして共有して利用できるように、スモールスター
トが可能です。

フローティングライセンス

録画で簡単作成

オンプレミス

最短利用期間1ヵ月

初心者から使える

無料トライアル



中小企業への



※1

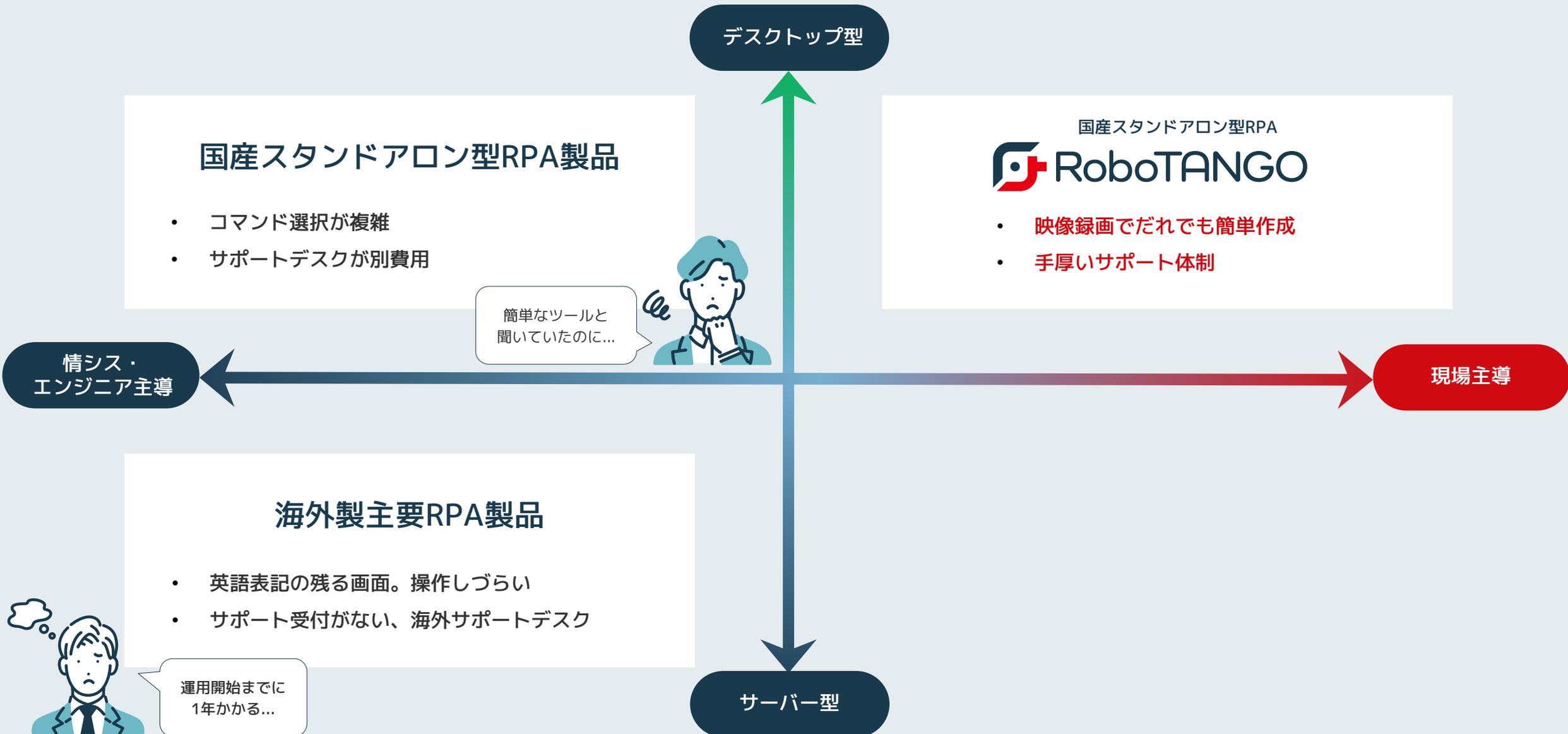


※2

※1) 2025年3月末時点の導入実績

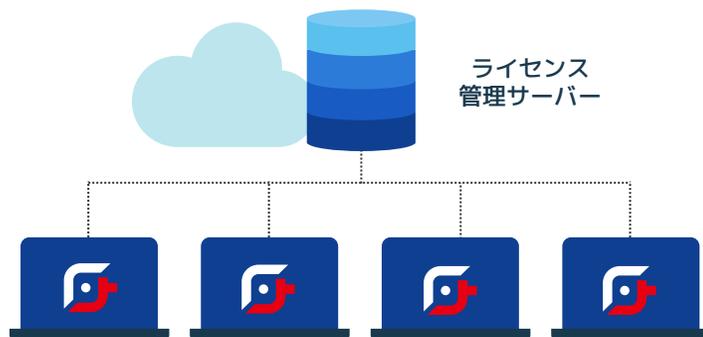
※2) サービスの最低利用期間での解約率0.7% (2022年9月末時点)





FEATURE 01

フローティングライセンス 標準提供



- 1つのライセンスを、複数のPC端末でご利用可能です
- 最短利用期間1ヵ月からの利用が可能です
- ロボ作成や運用に関わるコストダウンを実現

FEATURE 02

録画機能で 簡単記録



- 画面上の操作をそのまま録画することができる録画機能を活用して、短時間でスムーズにロボを作成することができます
- プログラミングの知識や技術は不要です

FEATURE 03

充実したサポート体制



- ライセンス費用にお客様専用のヘルプデスクサイト提供 (FAQ・お問い合わせ受付) を含みます
- 有償サポート「リモレク」「導入支援サービス」では、お客様の習熟度に合わせた定着支援を実施

基本プラン

初期費用

10万円

月額費用

6.5万円

お客様専用サポートサイト（ヘルプデスク）

受付時間：平日 9時～17時（土日祝日除く）

- 表示価格は全て税抜価格となっております
- お支払い方法：WEB請求書発行 口座引落（月末締め翌々5日引落）or 銀行振込
- ご契約は1ヶ月単位、以降1ヶ月自動更新となります
- 月の途中で契約が開始又は終了した場合においても、月額で課金される費用は日割計算によらないものとし満額課金とします
- ライセンスはお申し込み後、5営業日以降に発行させていただきます
- 2025年6月1日利用分から、月額65,000円に価格改定。

RPAや業務自動化に関する問い合わせは下記よりお願いいたします。
RoboTANGO無料トライアルのお申し込みも可能です。



お問い合わせ

無料トライアル
(お試しデモ)

お電話でのお問い合わせ先

 **0120-277-031**

営業受付時間 9:00~18:00 (土日・祝祭日除く)

メールでのお問い合わせ先

 Mail:info@reiworq.com

会社概要



商号	スターティアレイズ株式会社 スターティアホールディングスグループ 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393）
本社所在地	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階
設立	2017年11月10日（営業開始日：2018年4月2日）
代表者	代表取締役社長 鈴木 健太
資本金	9,000万円
代表電話番号	03-6316-1488
事業内容	バックオフィスDX支援事業

ISMS 認証

スターティアグループは ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の国際規格「ISO/IEC27001」並びに国内規格「JIS Q 27001」の要求事項に適合していることを証されています。



IS 575952 / ISO(JIS Q)27001

PMS 認証

スターティアグループは PMS（個人情報保護マネジメントシステム）の国内規格「JIS Q 15001」の要求事項に適合していることを証されています。



JIS Q 15001
個人情報保護
マネジメントシステム
PIMS600303

グループ概要



商号	スターティアホールディングス株式会社
本社所在地	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階
設立	1996年2月21日
代表者	本郷 秀之
資本金	824,315千円
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393）



MISSION

働き方の 選択肢を増やす

労働力不足という社会課題に対して、仕事の効率を上げる 「簡単、便利、安心」なサービスを提供

働き方改革が叫ばれる昨今。

国内企業の多くを占める中小企業がDXの波に取り残されています。

中でも、情報システム部門の人材不足によって実施に踏み切れない企業が少なくないのも事実。

働き方改革は大手企業だけのものではない。

中小企業が今ある経営資源を最大限活用できる働き方づくりをお手伝いしたい。

そんな想いのもと、スターティアレイズは、

生産性を向上させるITサービスの提供はもちろん、

それらに精通したプロフェッショナルがお客様の課題に誰よりもお真摯に寄り添うことで、
持続的成長を共に実現するパートナーであり続けます。

テクノロジーに代用できる単純作業から解放され価値を生み出す業務に、
時間・場所を問わず取り組める。

生産性が向上した職場環境から、多様な働き方が生まれる。

そんな企業の持続的成長と働きがいを実現するのが、

私たちスターティアレイズの使命です。

本資料の掲載内容（画像、文章等）について

本資料の掲載内容（画像、文章等）の一部及び全てについて、
スターティアレイズ株式会社への事前の許諾なく、
複製、転載、転用、改変等の二次利用を固く禁じます。

※本資料で使用している会社名及び製品名・ロゴマークは、
各社の商号・商標または登録商標です。

